

「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況」 に係る事前意見

①NPO 法人いとう子育てネットワーク・ゆう (P70)

- ・ 保育園入園の待機をさせられているママも多くいます。1年の育休をとって職場復帰をしたいけれど、0歳児の空きがなくて困っているそうです。「重点課題3 子育てと両立できる働き方の導入」の中に保育士や放課後児童クラブ支援員の人材を確保とありますが、実際、人材の確保は十分ではないようです。出生数を増やすには、国をあげて子どもを育てやすい環境（人的にも物的にも金銭的にも）を作っていかなければならないと考えます。

②社会福祉法人梓友会 (P92～93)

- ・ 重要度の高いKPIである県外からの移住相談件数が、現時点で目標値を超えているのは、大変評価できると考えます。2019年以前の移住相談件数と比しても向上しており、素晴らしい実績だと存じます。次年度以降の更なる成果向上と適正な目標値の設定のため、どの施策の有効性が高いのかより詳しく検証していただきたい。施策に係る定量的データを公表いただくことで、地域の民間事業者にとっても有益なデータとなり、本取組みの波及効果も期待できるのではないかと考えます。

・ しずおかサステナブルツーリズム

観光交流客のモデルツアーに対する認知度と内容評価等の調査結果から、ツアー内容の再点検を行っていただきたいと考えます。また、年齢・購買傾向・国内/海外などセグメント別の情報を公開いただくことで、地域全体で注力すべき方向性がわかりやすくなるのではないのでしょうか。

・ 旅行商品の造成と販売支援

モデルツアー同様、属性情報やターゲット情報等の分析と情報共有していただくことで、観光事業者を中心に様々な業種の民間事業者が、独自の施策を実行することで取組の効果を高めるとともに、地域活性化にもつながると考えます。

・ 移住支援

現時点で目標値以上の成果が上がっておりますが、次年度より一層の成功を目指すために、更に詳細な検証をお願いしたく存じます。移住は観光交流と比べて、より複合的な要因に基づく行動だと考えられるため、個別施策の有効性をより慎重に検証していただき、官民の連携を強めて推し進めていただきたいと考えます。

・ 特定健診受診率

高齢化が進む当地域においては、受診にかかる保険者の身体的負担の軽減も考慮に入れていただきたいと存じます。勧奨活動による周知の徹底に加えて、受診のしやすさを考慮した環境整備と予約方法等の制度設計にも力を入れていただきたいと考えます。

③静岡銀行 (P66)

- ・ 戦略4「若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる」につきまして、目指すべき方向性は「合計特殊出生率の向上」ですが、私が最も懸念している事は「未婚率の上昇」です。県や市町で取り組んでいる「婚活イベント等」の拡充を含め、「出会いの機会創出」や「結婚や子ども

もを持つことへの魅力アップに関する啓蒙活動」等にも更に取り組を強化する必要だと感じております。特に市町が連携し、観光活性化策と連動させた婚活イベントの有効性について、検討してもよろしいかと考えます。

④スルガ銀行 (P34)

- ・現状、外国人材なくして、地域企業の継続、発展はないため外国人材受入は重要な項目であります。KPI がコロナの影響で基準以下となっているようですが、コロナが5類となったことから目標値以上となることを期待します。また、本 KPI 以外にも指標を設けて受入を促進していく必要があると思料します。総合戦略 評価書を拝見し、金融機関として、関連する分野（地域産業の振興・移住定住の促進など）はあると思われまますのでサポートできるものは、行っていきたくと思料します。

⑤連合静岡伊豆地域協議会 (P34、92～93)

- ・総合戦略に基づいて、多岐にわたる取組を行っていることを初めて知りました。
- ・それぞれの事業においては数値の向上や成果が出ていることが評価書（案）から伝わってくるものの、人口減少や産業の衰退に歯止めがかかっているような実感は乏しい。これは何が原因なのであろうか。
- ・伊豆半島地域の K P I の現状値は公表予定のものが多いが、観光交流客数、宿泊客数は特に重要な指標と感じているので公表が待ち望まれる。
- ・全国学力・学習状況調査で「全国平均を上回る」ことを指標にするのは疑問。

⑥静岡大学 (P73～76、P79)

- ・すべての子どもが大切にされる社会づくり
制度の狭間の問題が深刻になっている。生活保護世帯やひとり親家庭といった既に把握されている家庭への支援はもとより、そのような対象になっていない家庭にも、ヤングケアラーや経済的に困窮している家庭はあるという意識でアウトリーチの取組が重要だと考える。
- ・多文化共生社会の実現
中国浙江省との協定（医療、介護等）を締結したとあるが、具体的にどのような内容か？
今後、ますます外国人住民は増加していく。外国人が住みやすい環境を共に考え、作っていくことも必要。外国人に日本語や生活上のルールを教えること同時に、外国人の文化に興味をもち理解することも必要。行動の背景にある文化的相違や考え方の違いを互いに理解する機会を多く作る必要がある。日本人は高齢化、一方外国人は若者が多い。地域にとり若い人材は貴重であり、互いにメリットを感じられる関係づくりが必要。

⑦伊東市 (P83、P91)

- ・集落機能の維持と生活交通の確保
K P I の「現状値（2023 年度）2023 年 9 月公表予定」と評価・課題欄の「中山間地域に住み続けたいと思う住民の割合は 6 4. 4 % と、目標値を達成しました。」の整合性をとる必

要がある。文章中に「2022年度」の記載が漏れているのか。

- ・革新的技術の利活用による業務革新KPIの「現状値（2022年度）累計48件」と評価・課題欄の一ポツ目「ICTを利活用し、～2022年度までの累計が54件に達しています。」の整合性がとれていないが、開始年度がKPIと文章で相違しているのか。